ヘブル・ミドゥラーシュ

初めと終わりの文字について

The Celebrate Mattzot Midrash in Hebrew

水曜アシュレークラス
タマリ　テルコ

目次　タイトル

1.「ヘブル語について」אアーレフとתターヴ

2.「完璧な光について」ウリム אוּרִים ウーリームとトンミム תֻּמִּים トゥッミーム

3.「地上再臨の様子について」来る　אָתָה アーター

4.「時のしるしについて」しるし　אוֹת オート

5.「信じるとは」　同意する　אוּת　ウート

6.「信仰の在り方について」炉　אתון アットゥーン

7.「アロンの胸の上にあるようにするとは」

8.「メリズモ」修辞法について　א と ת

9. まとめ

1. ヘブル語の初めの文字אアーレフと終わりの文字תターヴ

まず初めに、ヘブル語を学ぶとき、アルファベットを覚えます。

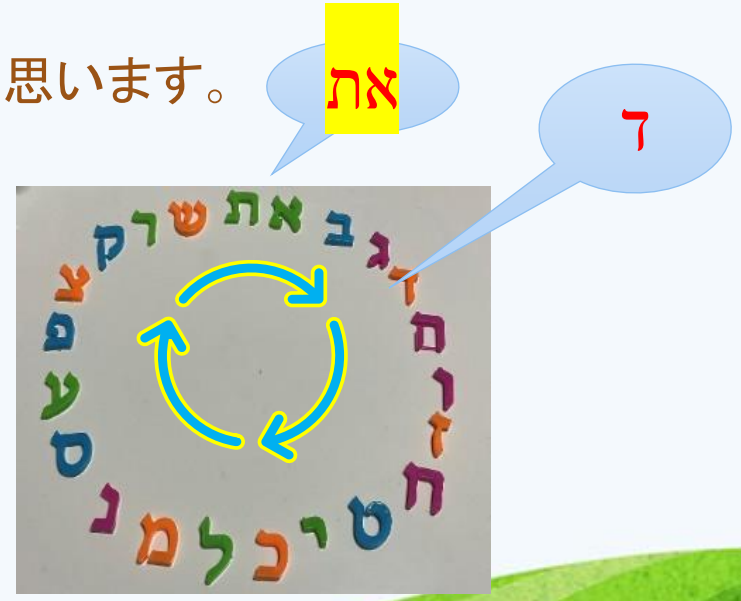
その初めから終わりの文字を覚えないことには、何も始まりません。そして、22文字のヘブル語には神さまの意図が隠されているようです。それを知るためには、まず、ヘブル語のアルファベットを学ぶことが必要不可欠です。聖書には、更なる真髄のドアがあって、そこには鍵が掛かっています。その鍵を開くにはヘブル語の文字が必要だと思いました。とっても重要です。今日は、ヘブル語の初めの文字אアーレフと終わりの文字תターヴの繋がりが、どれほどイェシュアを表しているかをミドゥラーシュして行きたいと思います。

一般的に文字を書くとき、読むとき、私たちの頭の中は、左の図のように文字は並列のイメージではないでしょうか。私はヘブル語を学んで、更に聖書と共に考えているうちに並列ではなく円形のイメージではないかと考え始めました。文字を読むのも左から右ではなく、右から左。私たちの世界から見ると鏡から見た世界です。このヘブル語は天にあるものの写しです。**אからת**までの流れのイメージも違うはずです。それは、初めの【創世記】が終わりの書である【黙示録】と繋がっていると云うことも意味しているのだと思います。

אבגדהוזחט

יכלמנסעפצ

קרשת



聖書で初めてこのאアーレフとתターヴが出てきた初出箇所を見て行きたいと思います。

それは創世記1章1節の❹番目の文字です。

【創世記 1:1】
はじめに神が天と地を創造された。

בְּרֵאשִׁית בָּרָא אֱלֹהִים אֵת הַשָּׁמַיִם וְאֵת הָאָרֶץ
❶ ❷ ❸ ❹ ❺ ❻ ❼

聖書の一番初めの章にאֵתエートが「目的格」として登場します。そして神さまはこの❹番目のאֵת

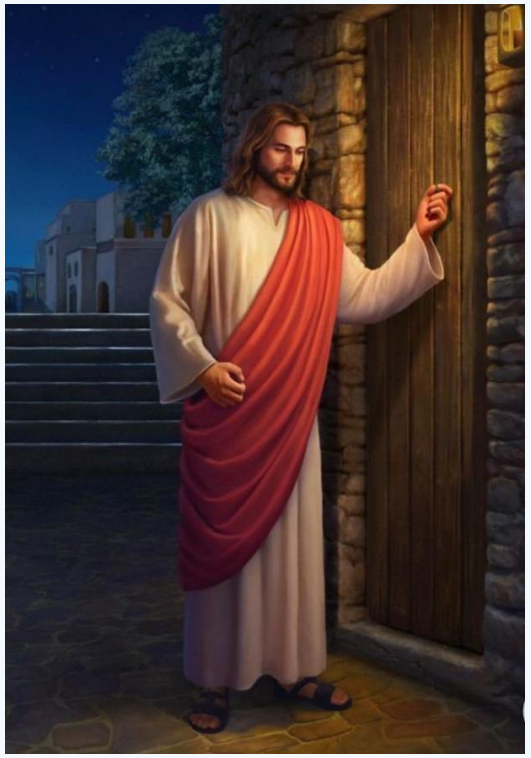
エート以降から、この世の全てのものの創造を開始しています。また、アルファベットの❹番目の

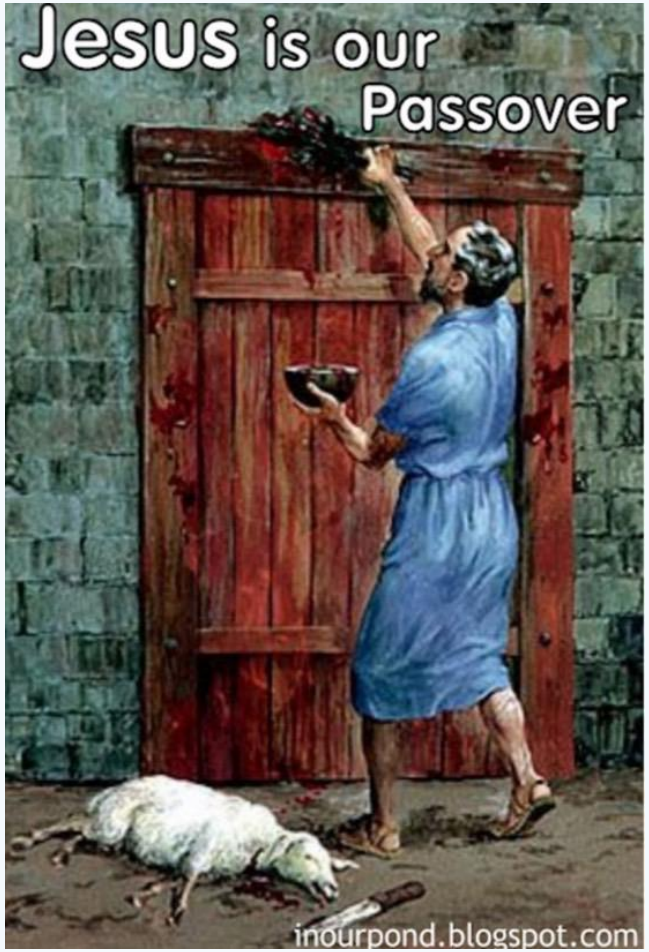
אבגדהוזחטיכלמנסעפצקרשת
❶❷❸❹

文字も見てみましょう。❹番目の文字はדダーレトです。それは「門」דֶּלֶתデレットを表わす言葉です。

つまり、ここから神さまの創造の「門」が開き、御国の計画がスタートしたように思えます。

みなさん、「門」と言ったら、どなたを思い出しますか？
また、思い出す聖句を言ってみて下さい。どこの箇所でしょう？
（ミュートを外して！）





答えは、

【ヨハネ 10:9】

わたしは「門」 דダーレトדֶּלֶת/デレット/שַׁעַר シャアルです。 だれでもわたしを通って入るなら、救われす。

㊟この聖句で使われているヘブル語はשַׁעַרシャアルです。

דダーレト＝דֶּלֶת デレット＝שַׁעַרシャアル＝イェシュア

また、「初め」と「終わり」と言ったら？誰が示されましたか？

【黙示録　22：13】
わたしはアルファאであり、オメガתである。
最初であり、最後である。初めであり、終わりである。

アルファα/אアーレフ「初め」であり、オメガ Ω　/ת ターヴ「終わり」＝イェシュア

これらの2つの聖句が示すように「門」は「イェシュア」を表し、「初めであり終わりであるお方」、それも「イェシュア」を表しています。全てイェシュアを表す「ことば」です。
　昨日の発表を受けて、「全てのことが神から発し、神によって成り、神に至ります」という聖句が、リレーのように、私にバトンタッチされた気がします。なぜなら、今日のテーマだからです。ここで満先生の歌声が浮かんできました。♬～(^^♪

♪「全てのことは神から発し」ています。♫～

私たちは神さまから「ことば」を頂きました。それは私たちが神の似姿に近づくためのものです。つまり、イェシュアを表すために、**אアーレフからת ターヴまでの**22文字のアルファベットが与えられたと言うことなんです。これは**イェシュアを表すための完璧で、霊的なアルファベット**なのではないでしょうか！そして、それを私たちは各国の言語を通して使っています。でも、実はそれだけでは完璧ではありません。この「ことば」「文字」を完璧にするのにはどうすべきなのかを考えて行きたいと思います。

さぁ、ここから本題です。 ここでאת が「対として」出て来る聖書箇所に導かれました。

それは、【出エプト記　28：30 】のא「ウリム」とת「トンミム」です。

2. ウリム אוּרִים ウーリームとトンミム תֻּמִּים トゥッミーム

【出エジプト記 28 :30 】

さばきの胸当てにはウリム אוּרִים ウーリームとトンミム תֻּמִּים トゥッミームを入れ、アロンが【主】の前に出るときに、それがアロンの胸の上にあるようにする。

תֻּמִּים トゥッミーム
完全

אֶת

אוּרִים ウーリーム
光

前に את アーレフとターヴがイェシュアを表していることを聖書の中で見つけて来ました。ここで対になって出て来るウリムאוּרִים ウーリームとトンミムתֻּמִּים トゥッミームとは、「完璧な光」を示しています。つまり、みなさん、この光は何を表しているのでしょうか？

【ヨハネ１：９】
すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。

【ヨハネ８：１２】
わたしは世の光です。わたしに従う者は、
決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。

ウリムאוּרִים（ウーリーム）とトンミムתֻּמִּים（トゥッミーム）の「完璧な光」とは、「まことの光」であり、「神の計画」の全貌です。また「御心」でもあり、つまり、「イェシュア」そのものです。私たちが使う「ことば」も、その「ことば」や文字の中に「完璧な光」である「イェシュア」がいなければ、どの「ことば」も肉的で空しく、活かされないのではないでしょうか。

さて、「この光が世に来ようとしていた。」とありますが、光であるイェシュアはどのように来られるのでしょうか。

３．来る אָתָה アーター

「まことの光が、世に来ようとしていた。」ここで「**来る**」אָתָה アーターの初出箇所を見てみましょう。これから地上再臨されるイェシュアの様子がうかがわれる気がします。

【申命記 33:2】
【主】はシナイから「来て」אָתָה アーター　セイルから彼らを**照らし**、パランの山から**光を放ち**、**幾万もの聖なる者のところ**から近づいて「来られる」אָתָה アーター。その右手に彼らの御使いたちを伴って。

【余談です】
イェシュアが子**ろば**に乗ってエルサレムにやって「来る」「אָתָה アーターのシーンを使いたかったのですが、「ろば」は「ろば」でも「ろば」違いでした。「雌ろば」אָתוֹן アートーンではなく、「子ろば」עַיִר アイールですよ！」とご指摘あり。

子ろば
עַיִר

雌ろば
אָתוֹן

ここで「来る」אָתָה アーターの背景は、聖なるもののところから、御使いたちを伴って、光を放ち、輝き照らして、אָתָה アーターやって「来る」んです。イェシュアの地上再臨ってこんななのかと思いました。イェシュアはこのようにאָתָה アーターやって「来る」のではないでしょうか？！

そして、今、私たちは終末に向かっています。大患難時代がやって来て、私たちは携挙されることでしょう。この描写のように地上再臨が起こり、そうして神さまのご計画が成就されるときがやがて来ます。御国のとき、千年王国のときです。私たちはこの時の「しるし」אוֹת オートに敏感でありたいものです。

4.「しるし」אות(オート)「時のしるし」

さてここで、私たちのこれからの課題である「時のしるし」אותオートと云う語彙と出会いました。みなさん、創世記1章で4日目には何が起こったでしょうか？覚えていらっしゃいますか？？？

【創世記1:14】
神は仰せられた。「光る物が天の大空にあれ。昼と夜を分けよ。
定められた時々のため、日と年のための「しるし」 אותオートとなれ。

これは、「しるし」אותオートの初出箇所です。まず、ここで「光るもの」が天に置かれたことで、定められた時々の為に、神さまは「時のしるし」を作られました。それは何かというと、

【レビ記23:2】
あなたがたが聖なる会合として召集する【主】の例祭、すなわち、わたしの例祭は次のとおりである。

時の「しるし」אותオートとは、光によって1日の始まりと終わりが示されることで、1日/1週間/1か月/1年が定められ、また季節ごとの枠組みも出来ました。更に、安息日やお祭りなどが定まりました。

過越の祭・初穂の祭・種なしパンの祭・5旬節・七週の祭
ラッパの祭・仮庵の祭・宮きよめの祭・プリムの祭などがそれです。

私たちは罪のために、本来大切にしなければならない神さまの定めている例祭を知っているのに祝っていません。クリスマスはまさにすり替えの祭で、多くの教会は祝っています。これでは悪魔の祭典です。多くのクリスチャンは、神さまのご計画を示す重要な「しるし」אותオートが見えていません。つまりは**イェシュアが見えてない**のです。或は見ようとしていないようにも思えます。残念なことだと思います。

私たちがこのように例祭を行うことで、時の回復、つまりは、カレンダーの回復をすることが、イスラエルの回復にも繋がるのだと思います。その「しるし」

אותオートは「永遠のいのち」、「御国」に繋がっているからです。これからも神さまの定めた例祭、「時のしるし」のお大切にしていきたいと思いました。

5. 同意する　אוֹתウート

さて、さらに調べていきますと、「同意する」 אוֹתウートと言う語彙が出てきました。旧約において神さまを信じ、割礼に「同意して」いる者たち、新約において言うならば、洗礼を受けて**イェシュア**の死と復活を信じ神さまに「同意する」なら、永遠のいのちを得て、御国への門をくぐることでしょう。ここで「同意して」אוֹתウート割礼を受けた背景を見てみたいと思います。

「同意する」אוֹת ウートの聖書初出箇所は、

【創世記34:15】
ただし、次の条件でなら同意אוֹתウートしましょう。もし、あなたがたの男たちがみな、割礼を受けて、私たちと同じようになるなら、

とあります。

この箇所【創世記 34：1～31】は、ヤコブの娘ディナがシケムに強姦された出来事が発端となっています。和解策が割礼でした。割礼後にヤコブの息子らシメオンとレビは、不意打ちに合わせてシケムの町の全ての男子を殺した話が「同意した」אוֹתウートここの背景になっています。割礼に同意אוֹתウートしたとしても、つまり洗礼を受けても、形だけの同意אוֹתウートではいい結果を導いていないことが分かります。

6. 炉　אתון アットーン

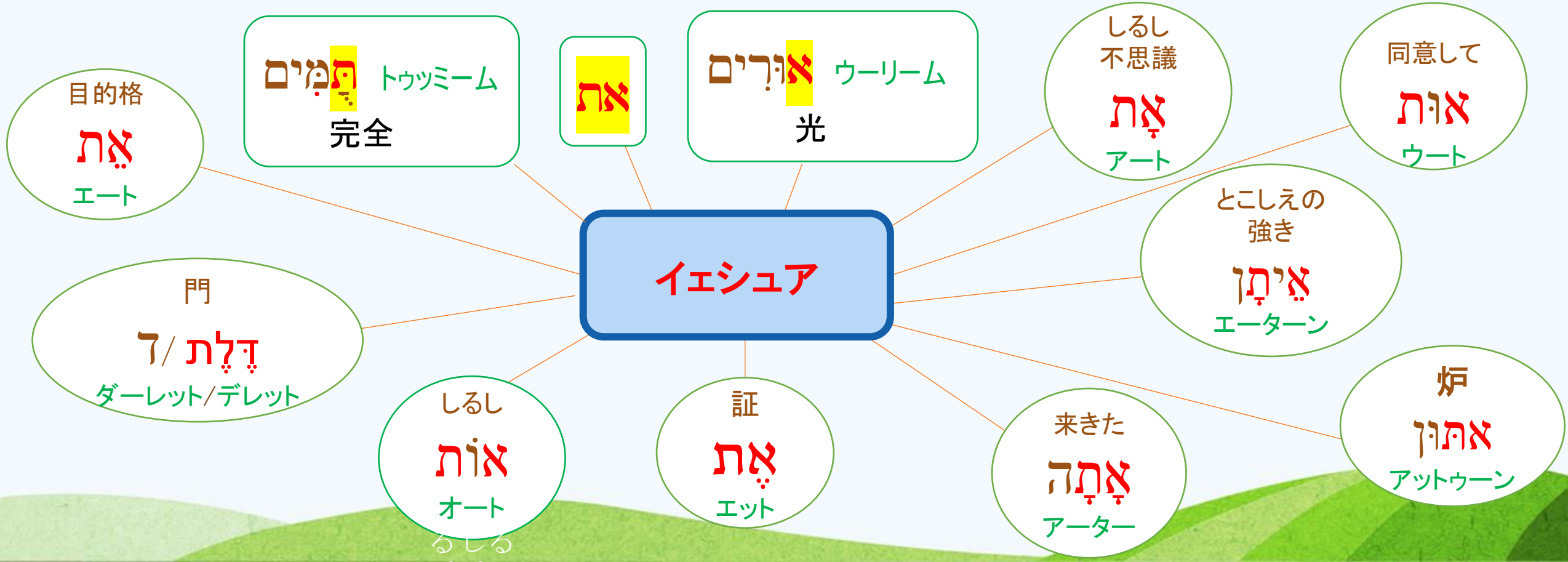
千年王国、御国が来るということは、裁きのときを待つことです。形だけの同意אות ウートで神さまと契約を結んだとしても、シケムの町のようにいい結果にはなりません。また、私たちは常に試されています。夕があり、朝が来る。闇がありそして、光に導かれています。試練を通って、また死を通って復活の朝を迎えるのです。ここで最後に導かれた語彙は、「炉」אתון アットゥーンです。この初出箇所を見て信仰を強めていきたいと思います。

【ダニエル書 3:6 】
ひれ伏して拝まない者はだれでも、即刻、火の燃える炉אתון アットゥーンに投げ込まれるます。

「炉」אתון アットゥーン初出箇所は、偶像崇拝に屈せずに、「炉」に投げ込まれるという背景です。神への信仰に揺ぎが無く、それ故に燃える「炉」に投げ込まれるとは、アブラハムがイサクを捧げ、試されたように、神さまの試し、裁き、聖別を表しているのだと思いました。私たちは時々神さまからの試し「炉」אתון アットゥーンが用意されているようです。今まで色々な苦しみ、悲しみ、痛みを通り抜けて来た人もいることでしょう。私たちはこれからもこの世の「炉」の中に投げ込まれるかも知れません。でも、その「炉」の中で燃え尽きることのない真の御霊（イェシュア）を保ち、神への絶対なる信頼、信仰を持っていこうではありませんか！

❶「門」であるお方、❷「最初」であり、「終わり」であるお方、❸ 全ての「しるし」の中に「証し」されているお方、❹ウリム とトンミム「完璧な光」を与えて下さるお方、それはイェシュアです！

みなさん、どの言葉もイェシュアに繋がっていることをこの図で確認してみて下さい。



7.「アロンの胸の上にあるようにする。」

私たちはクリスチャンは、イェシュアを受け入れた祭司です。
ここでもう1度【出エジプト記 28：30 】を読みたいと思います。

【出エジプト記 28：30 】

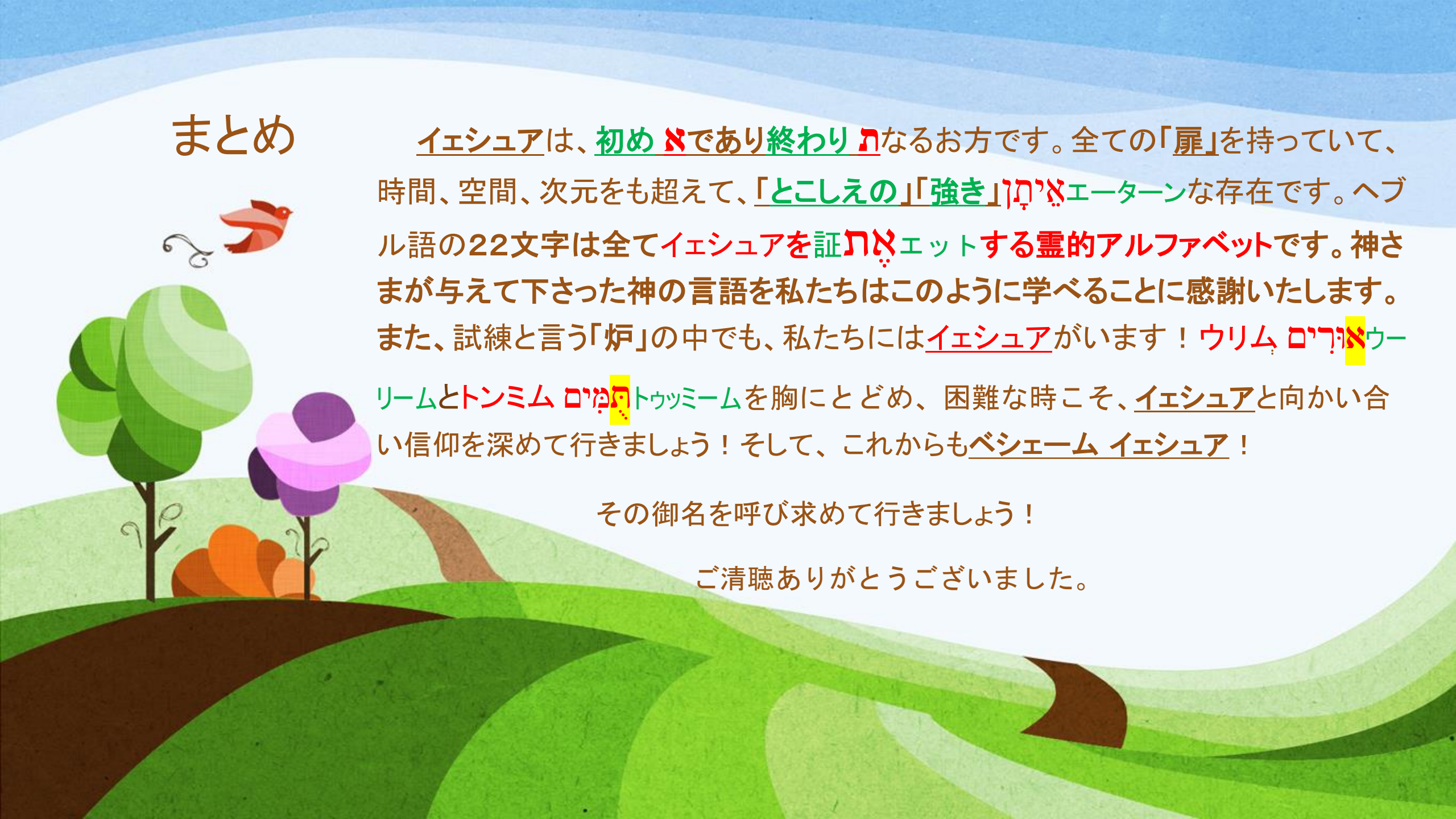
さばきの胸当てにはウリム אוּרִים ウーリームとトンミム תֻּמִּים トゥッミームを入れ、アロンが【主】の前に出るときに、それがアロンの胸の上にあるようにする。

「アロンの胸の上にあるようにする。」とは、私たちはみな祭司としての自覚をもって、これらの石「ウリムとトンミム」を「完璧な光」として、つまり「イェシュア」を胸の上にとどめると云うことだと思います。私たちは自分たちでは輝けません。なぜなら、土の器に過ぎないからです。でも、神さまは、その光を受けれられるように神の似姿としての器を私たちに与えて下さりました。私たちは、イェシュアの「完璧な光」ウリム אוּרִים ウーリームとトンミム תֻּמִּים トゥッミームをとどめてその光を増殖させていきましょう！これに気付き、これが出来るクリスチャンは幸いだと思います。

8. אとת「メリズモ」修辞法

最後は、初めに戻りまして、אとתです。「初めと終わり」と云う相反するものを組み合わせることで**すべてを表す**「**メリズモ」修辞法**と云うものについて少し触れたいと思います。「天と地」と書くことで、**空間的に**「天と地にあるもののすべて」を表します。他には「昼も夜も」と云う表現。これは**時間的、状況的総体**を表します。また、「ダンからベエルシェバまで」と云って**地理的総体**を表わしたり、「善と悪」「善からはじまり悪に至る」**知識の総体**を表すものもあります。ここも、全てイェシュァを証するאתエットの「ことば」です。

まとめ



イェシュアは、初めאであり終わりתなるお方です。全ての「扉」を持っていて、時間、空間、次元をも超えて、「とこしえの」「強き」אֵיתָן エーターンな存在です。ヘブル語の22文字は全てイェシュアを証אֵתエットする霊的アルファベットです。神さまが与えて下さった神の言語を私たちはこのように学べることに感謝いたします。また、試練と言う「炉」の中でも、私たちにはイェシュアがいます！ウリム אוּרִים ウーリームとトンミム תֻּמִּים トゥッミームを胸にとどめ、困難な時こそ、イェシュアと向かい合い信仰を深めて行きましょう！そして、これからもベシェーム イェシュア！

その御名を呼び求めて行きましょう！

ご清聴ありがとうございました。